

令和5年度

第4回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和6年3月27日（水）

15：00～17：00（予定）

場 所：関東森林管理局 東京事務所 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

（2）国有林材の供給調整について

（3）その他

3 閉 会

令和5年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

○委員

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	出欠
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一	出席
福島県森林組合連合会 特別職共販部長	遠藤 誠寿	欠席
栃木県 県東森林環境事務所 所長	川上 晴代	出席
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史	出席
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 広興	出席
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子	欠席
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡	出席
栃木県森林組合連合会 代表理事専務	佐橋 正美	出席
群馬県森林組合連合会 木材部 販売課長	田村 進	出席
株式会社堀江林業 代表取締役	堀江 賢一	出席

○関東森林管理局

官 職	氏 名	出欠
森林整備部長	川浪 亜紀子	出席
資源活用課長	梶井 昌克	出席
東京事務所 副所長	堀江 則之	出席
企画官(木材需給対策担当)	飯村 善美	出席
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充	出席
長期安定供給係長	齋藤 博	出席
素材供給係長	齋藤 悠	欠席
素材供給係	神保 宏樹	出席
供給計画係長	井上 祥吾	出席

(別紙)

令和5年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和6年3月27日(水) 15:00~17:00

関東森林管理局 東京事務所 会議室

2 議題

(1) 木材の需給動向について

(2) 国有林材の供給調整について

3 検討結果

地域差はあるが山からの出材は順調で、原木価格は秋の急上昇からの反動で下がり傾向にあったが、一定水準を保っている。

国産材製品については、住宅需要の停滞が長引いており、構造材の荷動きが鈍く製材工場の在庫の増加が見られる。集成管柱や間柱等の一部の品目については、外材価格の高止まりの影響で引き合いが強くなっている。合板工場の生産調整は継続されている。

今後については、製材工場の在庫増や住宅着工が低迷していることから、需要動向、価格動向への注視が必要である。

以上のことから、現時点では国有林材の供給調整は不要と判断されるが、国有林においては、各地域の状況を踏まえた確かな供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討をお願いする。

4 主な情報、意見

○ 構造材を中心に売りにくいが板材、内装材は間に合わないくらい売れており、非常にアンバランスな状況。構造材は良くなる見通しが無い。その中で、海外輸出をしている大きな企業は賃上げが進んでおり、人材確保の面で苦慮している。

○ 原木の出材量は順調。構造材の荷動きが停滞しているが間柱の荷動きは良い。原木価格は全体的に11月をピークに下がり傾向だったが2月に入り業者の手持ち不足感からかスギの引き合いが強い。製材品についてはスギ柱角とヒノキ土台で値下がりをしているが間柱は維持している。新設住宅着工戸数は8か月連続で前年同月を割り、持ち家の減少が際立っており。木材業界はしばらく低迷が続くことが予想される。大型物件に絡んでいる工場はコンスタントに仕事があるよう。

○ 原木の生産は順調。集成材はヨーロッパ材と比べ割安感があるため無垢材よりも価格は維持されている。プレカット工場で刻む構造材はほとんど集成材に代わって、無垢材の使用が減ってきている。住宅需要が減少する中で、住宅メーカーから製材工場に対しての価格引き下げ要求が強いが、製材工場としては人件費や輸送費の上昇があつてかなり厳しい。その中で、製材業界と全く関係のない業界から製材に進出する計画がいろいろ進んでいて、業界として将来どうなるのか心配。

○ 3月の市場への入荷は少なめ。販売についてはここ半年ぐらいほぼ完売の状況。製材品の在庫はかなりあると聞いているので、春先以降虫害が出る頃の材が売れない心配がある。

- 原木の荷動きは、暖冬により原木丸太が凍ることがないので順調に製材されていて、引き合いが落ちていないから価格も維持されているのではないかと。今後は例年どおり出材量が下がっていく見込み。今後栃木県内に大型工場ができる見込みで、直送にも取り組んでいるところ。
- 合板工場の受け入れが制限されているため、苦慮している。出材は少なく価格は昨年度と比べると下がり幅は小さい。例年この後下がっていくが、昨年ほど大きくは下がらないと予測をしている。需要が低迷する中、花粉症発生源対策が影響するのではないかと懸念する声もある。
- 素材生産業者の立場とすると、今の価格であれば安定して出材できる。梅雨材になるとわからないが、製材所は在庫を積み上げている状況。合板材は受け入れ調整のため、一部バイオマス関係に振っている。
- 全国的に原木在庫が急増しており懸念している。金利の上昇についても要注意。住宅着工が期待できない中、非住宅も含め国産材の競争力を高め、市場シェアを獲得していくことが重要。
- 福島県内に大型製材工場の建設予定があることから木材需要が増えることに期待。認証材の供給拡大は、新たなビジネスチャンスになると考えている。
- 合板メーカーは、合板の需要が少なく価格が下がっている中、トラック運賃含む諸経費増加で苦慮している。東北地区に新たな大型製材、集成材工場が本格稼働した際、原木の集材、価格等の問題が懸念される。